

銅・アルミレポート

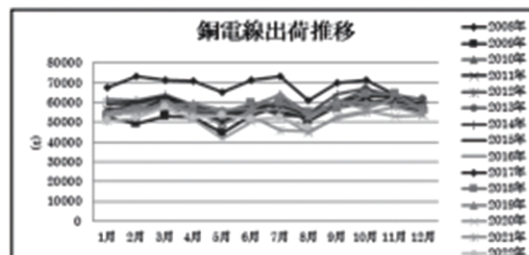
橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎

9月の銅の概況及び10月の見通し (3)

予想レンジ		
LMEセツル	7,000-8,000ドル	↑
建値	102万円-120万円	↑
為替	140円-145円	円安
(1か月間TTM)		

【日本電線工業会発の出荷速報(推定)】

前年比+3.3%の4万7,200 t。
内訳は、国内が+3.3%、輸出が+0.8%。



出典 日本電線工業会

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると8月の自動車生産台数は前年比+22.3%の55万1,799台。

輸出は、前年同月比+15.3%の27万182台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると8月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+17.8%の24万2,042台。

内訳は、乗用車が+24.7%、貨物が+14.9%、バスは-3.2%。

【伸銅品生産】

8月の伸銅品生産動向速報値を公表した。8月伸銅品生産量は5万3,710トン、前年同月比2.2%減少し、8か月連続のマイナスとなった。僅かな差で前年実績に届かないが、マイナス幅が小さく、ほぼ昨年並みの生産量で推移している。半導体向けの需要が堅調に推移している。自動車向けに積み上げてきた部品の在庫が掃けてきたとの情報が入ってきており、今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

6月に上海のロックダウンの影響が解消したが8月の時点でも、まだ中国からの部品納入滞りに伴う影響が残っている。

銅条は、同比3ヶ月続けてプラス。8月で比較しても、過去6位の生産量となった。引き続き車載ディス

クリートなど半導体向けの需要が好調である。また、自動車向けの部品在庫の消化が進んできている模様で、今後、実需ベースでの増加が期待される。ただ、一部の会員企業からは、在庫分の消化が先行し、緩やかな調整に入る可能性の指摘も出ている。

黄銅棒は、同比8ヶ月連続マイナスで、住宅設備機器関連は新築向けが低調だが、リフォーム向け需要が支えている。ガス機器は、部品不足の問題が解消し、回復してきている。

【電線】

前年比+3.3%の4万7,200 t。

内訳は、国内が+3.3%、輸出が+0.8%。

【見通し】

【自動車】

8月の自動車生産が+22.3%。8月国内販売台数が前年比+17.8%。9か月ぶり生産、販売共に大幅増加。中国のゼロコロナ政策の影響は残るものの自動車向けに積み上げてきた部品の在庫が掃けてきたとの情報が入ってきており、今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

【伸銅品生産】

8月伸銅品生産量は5万3,710トン、前年同月比2.2%減少し、僅かな差で前年実績に届かないが、マイナス幅が小さく、ほぼ昨年並みの生産量で推移している。

今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

【電線】

輸出の伸びが鈍化するも自動車住宅の回復からプラスに転ずる可能性も。

【鋼輸出】

財務省の貿易統計によると、2022年8月の日本からの鋼スクラップ輸出量は2万763トンだった。2か月続けて3万トンを下回った。また前年同月比2.2%減少した。前月は、13ヶ月ぶりに前年同月実績を上回ったが、今回2か月ぶりにマイナスに戻った。

鋼スクラップの主要な輸出先は、全て昨年より輸出量を減らしている。ただ、その中では、最大輸出先の中国向けの輸出量の減少率が1桁パーセントに留まっている。中国向け以外は、ほぼ全て2桁パーセントのマイナスである。

【スクラップ景況予想】

流通【一次問屋】在庫は今月銅建値が114万から一時121万と上昇とその後115万と高値安定。7月以来の121万の時点で少ない在庫も放出され様在庫薄。

需要面に関して中国のゼロコロナ政策の影響は残るものの自動車向けに積み上げてきた部品の在庫が掃けてきたとの情報から全体としては旺盛。自動車関連向け製品の在庫積み上げが穿けてきたとのこと。

(次頁へ)

日刊金属

外電配信料
(税込)

6ヵ月:46,200円

12ヵ月:92,400円